



## 高山右近 篇1

### 新たな澤城主

高山右近をご存じですか。戦国時代から江戸時代初期の武将で、キリシタン大名としても活躍しました。少年時代、右近は、ここ宇陀で過ごしました。

高山氏は、摂津国三島郡高山庄（現在の大阪府豊能町高山）出身の国人領主です。右近は、天文12年（1552）頃に生まれ、彦五郎と名付けられました。父の友照（ともてる別号：凶書）は、三好長慶の家臣として松永久秀の与力となっていました。

永禄2年（1559）、松永久秀は、摂津の武士を率いて、大和に侵攻し、翌年には大和一国を支配しました。宇陀郡も松永久秀の勢力下となり、宇陀三人衆（宇陀三将）とも呼ばれた秋山氏・澤氏・芳野氏らは、伊賀国などへ逃れました。

宇陀へは、右近の父・友照が入り、澤氏に代わって、新たな澤城主となりました。この時、一緒に右近も澤城へと入ったのです。

永禄6年（1563）、宣教師が堺を訪問することを知った僧達は、松永久秀に宣教師の追放を依頼しました。松永久秀は、宣教師と仏教についての知識のあるもので討論させた上で、なにか不審な点があれば追放しようと考え、高山友照と結城忠正を討論の審査役としました。この討論のなかで審査役のふたりは、キリスト教の教えに感化し、洗礼を受けました。高山友照は、熱心なキリスト教徒となり、家族や家臣、周囲の領主らに布教しました。

この頃の澤城内の様子を伝える史料としては、ポルトガルの宣教師・ルイス・フロイスが書いた『日本史』があります。次号で紹介することとしましょう。

